

## 特別活動

# 学級活動（１）の議題の選定における指導のポイント

学級活動（１）の学級会では、全員が話し合いに必要感をもてるようにすることが大切です。そのために、日頃から一人一人がよりよい生活づくりへの問題意識をもてるように指導を継続した上で、一人一人の見付けた問題を計画委員が検討し、学級全体の了承を得るまでの過程を充実させる必要があります。その中でも、話し合いの鍵となる「議題の選定」について、場面例を基に指導のポイントを以下に示します。

<指導例> 学級活動（１）ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決（中学校第１学年）

<事前活動> 1 問題の発見→2 議題の選定（計画委員会）→3 議題の決定→4 活動計画の作成→5 問題の意識化

議題の選定の場面例（計画委員会で） 司会：KS 計画委員：K 提案者：A 教師：T

A 「学級力アンケートの結果で、『主体性』に関わる項目の数値が毎回他の項目より低いのが気になります。今の学級をもっとよくするために改善策を考えたいです。」

→視点②（中略）

K 1 「最近みんな自分の役割を果たせるようになってきていると思いますが…」

K 2 「でも、数値からすると主体性がないと思っている人が多いということだよね。」

K 3 「主体性がないといっても、自分の役割をちゃんと果たしていればいいのでは？」

T 「中学生として、自分のことだけやっていけばそれでいいのでしょうか。」

→教師の助言

K 1 「先輩たちは部活動の時、後輩のやるべき仕事を時々手伝ってくれます。自分たち後輩の役割なのに…。そんな先輩を自分はとても尊敬しています。」

K 2 「給食当番の私が重い食缶を運んでいる時、Bくんが手伝ってくれてうれしかったよ。」

K 3 「人に言われたからやるのではなく、自分から行動できる人が多い学級になれば、きっと毎日がいい気分です。」

→視点④

K 2 「2学期が始まった今、中学校1年生としては与えられた役割を果たせばいいという段階はもう卒業ではないでしょうか。一人一人がもっと全体のことを考えて主体的に行動できることを目指すべきだと思います。」

→視点②・④（中略）

KS 「では、決まったことを確認します。学級全体に提案する議題案は『主体的な行動を目指して、今自分たちにできることは何か話し合おう』です。明日の帰りの会で、学級全体に提案したいと思います。」

→視点③

## ポイント

計画委員に次のような視点を事前に示した上で、議題としてふさわしいかどうか検討させます。

①多くの生徒が早急な解決を望んでいる議題か

②学級内の問題で、学級全員が協力しなければならない議題か

③創意工夫の余地がある議題か

④学級や学校生活をよりよいものにする議題か

⑤相手を傷付けるような結果にならないか

また、必要に応じて教師が話し合いに適切に関わって助言していくことが大切です。



学級会にふさわしい議題が選定されることにより、その後の計画委員による活動計画の作成等が充実するとともに、必要感のある学級会での話し合いの実現にもつながります。